

法陵權現と雨降石

史談會員 根本忠孝

文部省史科の少吉が石城郡最北端の川町村は心なき人のために折角の娘の史跡を空しく葬られやすいのはまことに遺憾の極みである。よつて「法陵權現」に就ては文部省史科を抱い集めて之を書く。「雨降石」に關しては断片的文獻的史料と口傳傳説に従して之を書いて見よう。

一 法陵權現

文政年中には岩城藩の地理歴史學者鍋田三喜の撰した『陸奥岩城名勝略記』に曰く

「式外古社法陵權現，在成

祇園八里上横須賀村御前神中島

月十三日、元年勅祭、例祭

とあるが見てても可成有名の古

祠であることが知られるよう。

從つてこの法陵權現を中心と

して「補賣七不思議」の口碑

あり、或は「ばん字石」あり

従つてこの法陵權現を中心と

して「補賣七不思議」の口碑

あり、「加賀越部神事」

とあるが見てても可成有名の古

祠であることが知られるよう。

從つてこの法陵權現を中心と

して「補賣七不思議」の口碑

あり、「加賀越部神事」

とあるが見てても可成有名の古

祠であることが知られるよう。

從つてこの法陵權現を中心と